

VMware移行を契機とした 次世代インフラ戦略

移行・運用・費用を見極め、自社に合う基盤を選び直す

2026年10月16日

パナソニック デジタル株式会社

エンタープライズインフラソリューション部 前田 圭介

今日のゴール：自社に合う選択肢を判断するための観点と、最初の一步を持ち帰る



製品の機能に加えて、移行・運用・費用をまとめて判断する

はじめに | 次世代インフラとは

目指す次世代インフラの姿
変化に合わせて、構成・運用・契約を見直せるインフラ

① 選び直せる



業務ごとに、構成と契約を見直す条件が分かっている

② 費用が見通せる



移行・運用・契約終了まで含め、次の更新まで比べられる

③ 一歩ずつ進める



移行条件を決め、業務単位で段階的に移せる

目指す姿を軸に、現在地からの道筋を描く



各ステップを私たちと一緒に整理しましょう



STEP 1 費用・期限・体制から、更新の前提を確認します

1 | 更新条件を整理する

契約・費用の確認



契約・ライセンスの変更点は？

契約書・保守資料で確認できることが多い



更新後の費用はいくらか？

確定分と見積待ちを分けて書き出す



分かっている範囲と、まだ読めない範囲を分けて整理する

1 | 更新条件を整理する

移行に使える時間・人の確認



契約更新・保守終了はいつか？

日付から逆算すると、検証期間は意外と短い



移行と運用に誰が関われるか？

準備・検証・運用の担当者を日程と一緒に決める



更新期限から逆算し、比較・検証に使える期間を確保する



STEP 2 変更の影響と、自社環境を把握する項目を確認します

2 | 現状を把握する



新しい基盤で動くかだけでなく、全工程の変化を確認する

2 | 現状を把握する



今が見えないと、比べられない

確認する項目	集める情報の例	この判断に使う
現行の課題	運用手順、保守連絡先、更新費用の負担	見直しの優先度
構成	サーバー、仮想マシン、OS、保守期限	再利用・更新の範囲
利用状況	CPU、メモリー、容量の実測値	必要性能・余裕容量
依存関係	業務システム、バックアップ、接続先	移行順序・対応可否
運用条件	許容停止時間、復旧目標、担当者	移行方式・運用体制

最初の成果物は、「構成一覧」と「移行できない条件」の整理



STEP 3 業務・運用・費用の条件から、目指す姿を決めます

3 | 目指す姿を決める

① 目指す姿を決める

次の更新までに実現したい姿 = 「次世代インフラ：変化に合わせて構成・運用・契約を見直せるインフラ」

選び直せる

費用が見通せる

一歩ずつ進める

自社に当てはめ、業務を止められる時間・運用体制・費用の条件を言葉にする

② その状態に向けて、今あるものを仕分ける



何を残すか

業務上必要な機能
使い続ける機器



何を変えるか

複雑な構成
手作業の運用



誰が担うか

自社と外部の
役割分担

すべてを入れ替える前提にせず、残す・変える・担う人を決める

3 | 目指す姿を決める

導入・移行時の費用

- ・ 機器・ライセンスの調達
- ・ 設計・構築・データ移行
- ・ 検証・教育・並行稼働

運用から次の更新までの費用

- ・ 保守・サブスクリプション
- ・ 日常運用・バックアップ
- ・ 増設・次回移行・契約終了

比較期間・対象台数・範囲をそろえる

見積の範囲がそろって初めて、総額を比べられる

3 | 目指す姿を決める

見えている課題の例	見えていない課題の例 (目指す姿とのギャップ)	目指す姿 (次世代インフラの姿)
ライセンス更新費用が 大きく上がった	一つの仮想化ソフトに頼りきりで、 次の更新でも選び直せない	次の更新で、仮想化ソフトを 比べて選び直せる
運用手順や保守連絡先が、 機器ごとにバラバラ	ファームウェア更新が後回しで、 運用が特定の担当者に頼りきり	管理と更新が自動化され、 誰でも同じ手順で運用できる
更新のたびに 大きな初期投資が必要	将来の使用量が読めず、 余裕を持たせて買いすぎている	使った分だけ支払い、 費用を見通せる

目指す姿と今を比べ、見えていない課題まで洗い出す



STEP 4 仮想化ソフト・基盤構成・契約を分けて考えます

4 | 選択肢を組み合わせる

仮想化ソフト



VMware継続 / 別の仮想化ソフト

例：HPE VM Essentials

確認：機能・互換性・移行性

基盤構成・管理

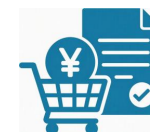


既存構成を活かす / 管理をまとめる

例：HPE Private Cloud
Business Edition

確認：既存資産・運用負荷・対象構成

調達・契約



購入する / サービスとして利用する

例：HPE GreenLake

確認：総額・契約期間・終了条件

見つけた課題を当てはめた領域ごとに、選択肢を組み合わせる

HPE Morpheus VM Essentials Software

バランスに優れた“ちょうど良い”ハイパーバイザー

ライブマイグレーションやHAはもちろんのこと、スナップショットやバックアップ、多彩なストレージ接続（ローカル、NFS、iSCSI、Fibre Channel）などの必要十分な機能群、分散仮想スイッチや分散ワークロード配置など、従来製品の上位グレード機能も搭載

既存の VMware 仮想化基盤の統合管理

併用期間に備えて1つの管理ツールで HVM / VMware 双方のハイパーバイザーを統合管理
Morpheus で培った IPAM や DNS 統合、自動化、キー管理などは VMware 既存環境でも利用可能
VMware 仮想マシンから HVM ハイパーバイザーへの移行機能も搭載

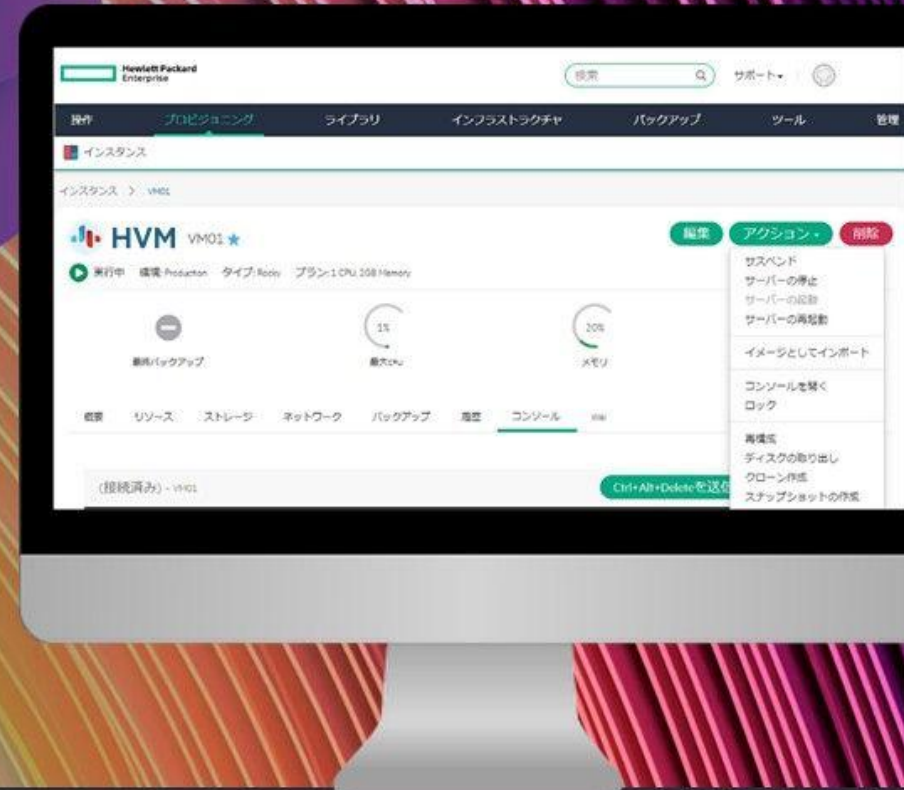
Morpheus Enterprise へのアップグレードパス

Nutanix / Hyper-V / Kubernetes / AWS / Azure など、マルチハイパーバイザー・クラウドに対応し、セルフサービスや自動化、マルチテナント、FinOps といったサービスプロバイダークラスの機能を提供する HPE Morpheus Enterprise Software ヘインプレースアップグレードが可能*

エンタープライズグレードのサポートとエコシステム

コアとなるハイパーバイザーには実績豊富なオープンソースの KVM をベースに、24時間365日体制・日本語対応によるエンタープライズグレードの保守サポートを提供
HPE の広範なエコシステムで、Backup / VDI / UPS を始めとする様々な ISV ベンダーとの技術連携

*有償のアップグレードライセンスをご用意しております



出典：Hewlett Packard Enterprise「第1回 | HPE Morpheus VM Essentials Softwareとは何か」

4 | 選択肢を組み合わせる

こんなお困りごと、ありませんか？



- ・ ライセンス費用の負担が重くなった
- ・ 代わりの製品で、今の業務が継続できるか不安
- ・ 一つの仮想化ソフトに頼りきりで、次の更新でも選び直せない

VME は、自社業務で使えるかを確認してから選ぶ

今の業務が継続でき、障害時に復旧できるか

機能例：統合管理／Veeam対応／PXEブート対応など

バックアップと復元

バックアップから、実際に復旧できるか

業務アプリ・OS

自社の業務アプリやOSがサポート対象か

固有の要件

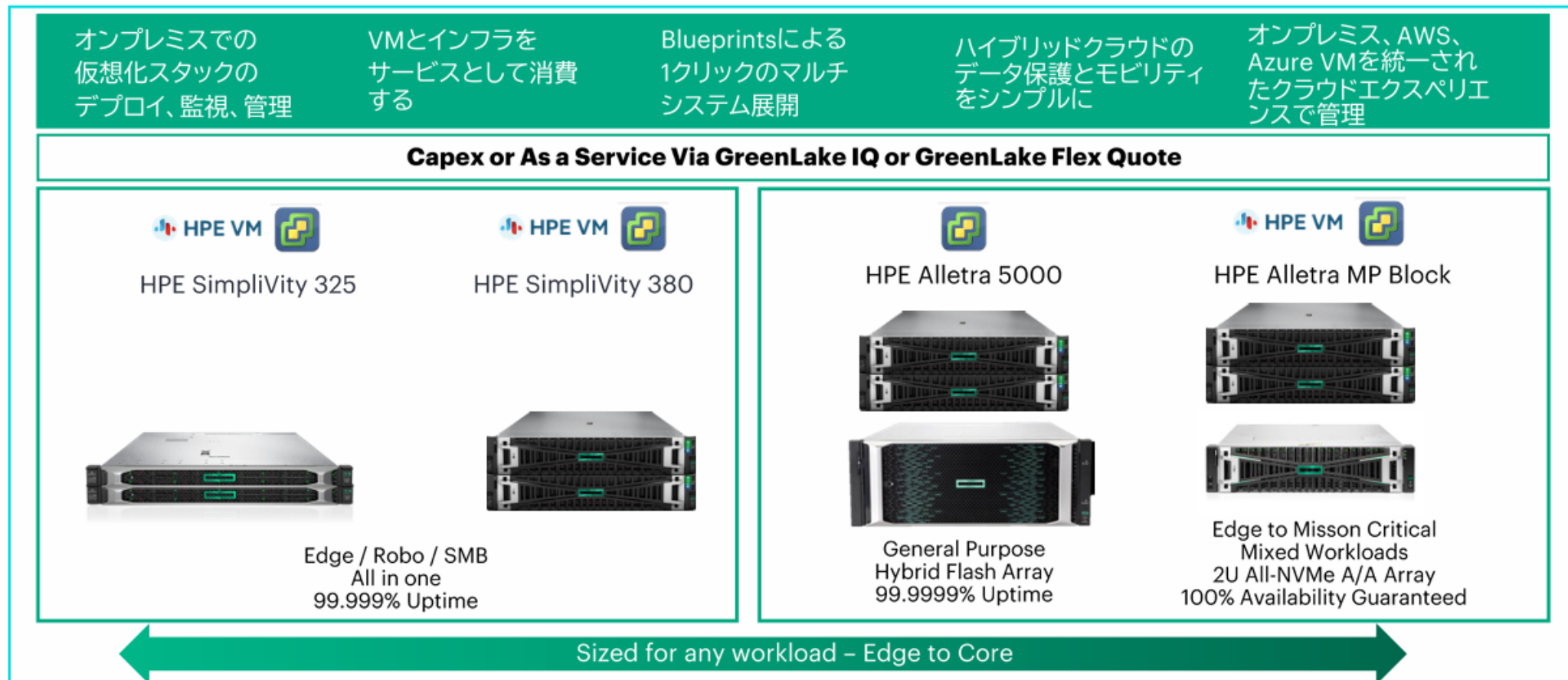
仮想デスクトップ・共有ディスクなど、自社特有の構成が動くか

機能の有無と、自社の業務で使えるかは分けて判断する

※対応バージョン・必要コンポーネント・構成上の制約は、公式サポート情報で確認が必要です。

HPE Private Cloud Business Edition

製品ラインナップ



VMware版も継続してご提供

2

出典：Hewlett Packard Enterprise「PCBE 最新情報 Webinar」2026年6月,0610_1_SimpliVityおよびPCBEポートフォリオ最新情報.pdf

4 | 選択肢を組み合わせる

こんなお困りごと、ありませんか？



- 運用手順や保守連絡先が、機器ごとにバラバラ
- ファームウェア更新に手が回らない
- 運用が特定の担当者に頼りきり

PCBE は、基盤の管理をまとめる選択肢

期待できること

- ✓ 統合画面で、仮想マシンと基盤をまとめて管理できる
- ✓ 導入や更新の作業を**自動化**し、手間を減らせる場合がある

導入前に確かめること

- 1 対象となる構成と、自動化できる範囲
- 2 停止が必要な条件と、保守の責任分界
- 3 自社の**運用手順**に合うか

管理をまとめられるかは、自社の運用手順で確かめる

※対応する構成・仮想化ソフト・更新範囲は、バージョンと契約条件によって異なります。

HPEはハイブリッドクラウドのNo.1プロバイダーへ

greenlake
by HPE



出典：Hewlett Packard Enterprise「GreenLake」 https://h50146.www5.hpe.com/directplus_ent/library/greenlake/

4 | 選択肢を組み合わせる

こんなお困りごと、ありませんか？



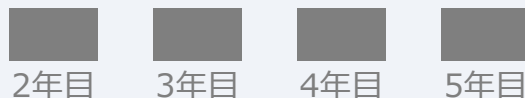
- 更新のたびに、大きな初期投資が必要になる
- 初期投資のための予算が厳しい
- 将来の使用量が読めず、余裕を持たせて買いすぎている

GreenLakeは、支払い方を変える選択肢

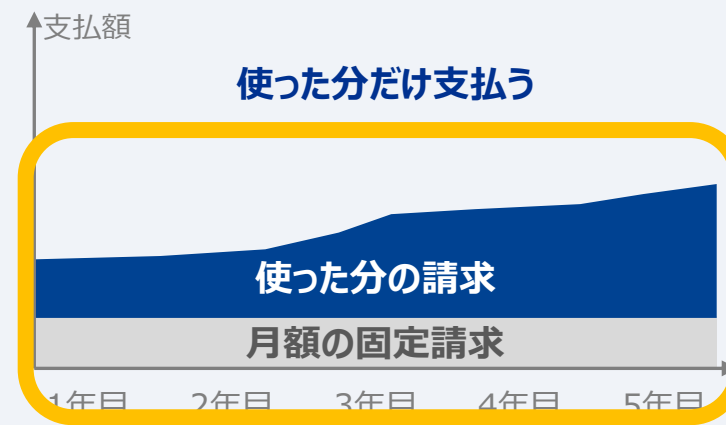
一括購入



余剰リソースを考慮して
初年度に大きな投資が
必要...



GreenLake (従量課金)

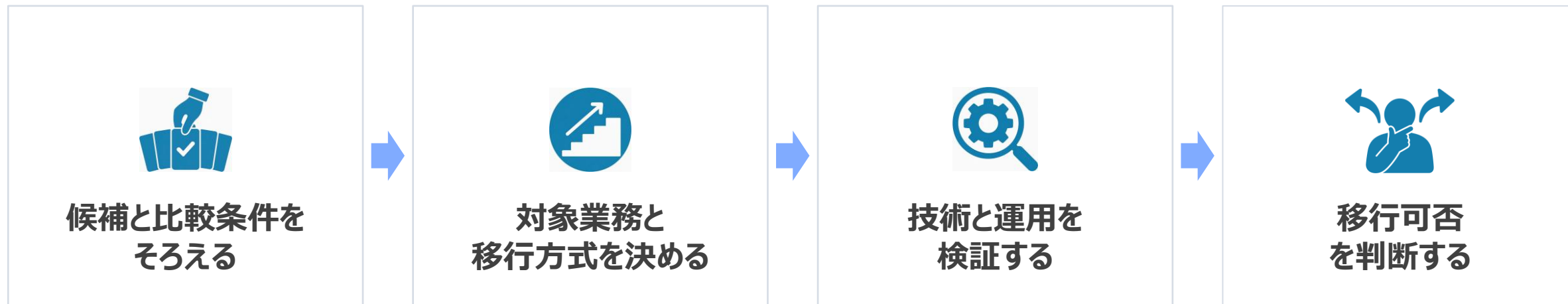


使った分だけ払うから、初期投資を抑えて始められる



STEP 5 移行条件を決めて検証し、移行可否を判断します

5 | 自社環境で検証する



検証前に合意したい
「移行条件」
(例)

観点	関係者と合意しておく条件の例
業務	必要な業務処理が動く
停止・復旧	停止・復旧時間が許容範囲に収まる
運用	担当者が運用できる
切り戻し	問題時に元の環境へ戻せる
費用・制約	費用と残る制約を説明できる

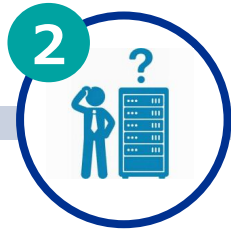
人手や検証環境が足りない場合でも、私たちが検証を支援します

まとめ



更新条件

期限から
検証期間を逆算



現状把握

構成と運用の
情報を集める



目指す姿

目指す状態を
言葉にする



選択肢

ソフト・構成・契約
を分ける



検証

移行条件を合意し
検証する

まずは、更新期限の確認と、今の構成の一覧づくりから。
どのステップからでも私たちが支援します。お気軽にご相談ください

The background of the slide features a complex, abstract network pattern of blue lines and dots, resembling a molecular structure or a digital network, set against a light blue gradient.

Panasonic

D Powered by Digital